3 Common Reference Level 3.5 Flexibility in a branching approach

担当:中村夏子

A1レベル以下の尺度

- ► A1レベル以前において限られた幅の言語を効果的に用いて 課題を遂行する段階がある
- ▶ 1994-1995 Swiss National Science Research Council の調査 において限定的言語使用の事例があることが確認された
- ▶ はじめて外国語を学習する人にとって有意義な目標設定に なり得る
- ▶ 旅行者の現実の生活に関わるもの、学校教育において「教育課題」のリストを別に作ることも可能

A1レベル以下の尺度

- can make simple purchases where pointing or other gesture can support the verbal reference;
- can ask and tell day, time of day and date;
- can use some basic greetings;
- can say yes, no, excuse me, please, thank you, sorry;
- can fill in uncomplicated forms with personal details, address, nationality, material status;
- can write a short, simple postcard

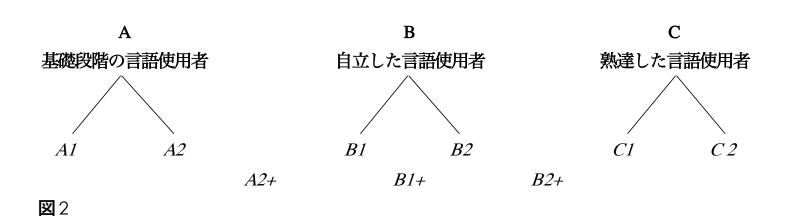
A1レベル以下の尺度

▶ CEFR-JにおいてはPre-A1が設定されている

	Procedure to the state of the s
Pre-A1	極めて限定的な日常の挨拶と意思の伝達
A1	学校生活での会話の導入
A2	学校以外の社会生活での会話が導入され
B1	さらに広い社会生活での会話
B2	抽象的な議論のできる能力
C1	抽象度のほかに流暢性
C2	幅広い慣用表現と議論のできる力,
	自分の英語力をモニターし、取り繕う能力

投野由紀夫編(2016) 「CAN-DOリスト作成・活 用 英語到達度指標 CEFR- Jガイドブック」大 修館書店p.100

Flexibility in a branching approach



▶ 狭い範囲のレベル間に独立のレベルが存在する可能性は、 learning contextだけでなく、examining contextで用いられるより広いレベルとも関連づけて考えるべき

Flexibility in a branching approach

▶ 例示的能力記述文においては、criterion levels(例 A2,A1.1)とplus level(例A2+,A2.2)の間は区別して表記される。

表 4 レベル A2.1 と A2.2 (A2+) 聴解:

もしはっきり、ゆっくり発音されるならば、具体的な用件に充分応じることができる理解力が ある。

A2

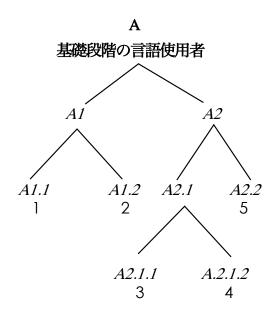
もしはっきり、ゆっくり発音されるならば、直接に重要な領域(例:ごく基本的な個人や家族の 情報、買い物、地元の地理、仕事)に関する語句や表現が理解できる。

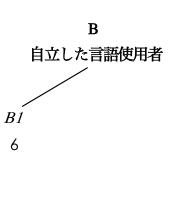
Flexibility in a branching approachの利点

- ▶ 各々の必要性、重要性に合わせて、共通枠組みとの関連を 保ちながらレベルわけを行うことができる。
- ▶ 各々が採用したレベルを共通枠組みの用語を用いることで 明確に位置付けることが可能

Flexibility in a branching approachの例

▶ 低いレベルの段階で進歩を目に見える形で与える

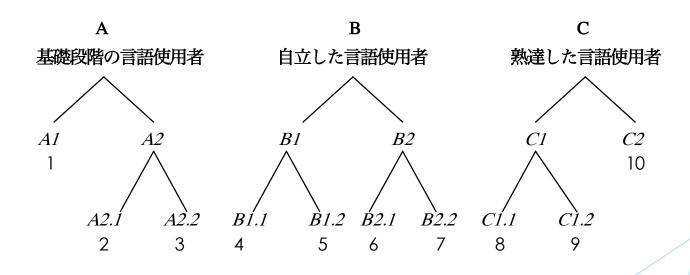




Flexibility in a branching approachの例

▶ 当該言語が話される地域で学習する場合

义 4



Flexibility in a branching approachの例

▶ 仕事で使用する高いレベルの言語を養成

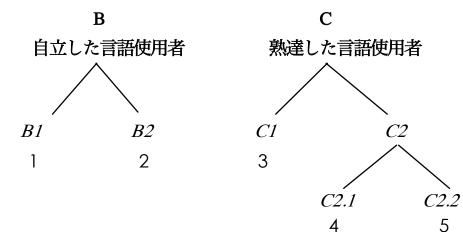


図 5